

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

遠野型インバウンド「永遠の日本のふるさと遠野」世界発信プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

遠野市

3 地域再生計画の区域

遠野市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

遠野市は岩手県を縦断する北上高地の中南部に位置し、広大な自然と冷涼な気候のもと農林業を基幹産業に田園風景や里山景観が維持され、農村の風習が今も伝承されている。

また、柳田國男が著した『遠野物語』に代表される歴史と文化を活かした観光にも取り組んでおり、年間約180万人(平成26年度)の観光客が訪れている。

このように、遠野市は悠久の時を超えて伝承してきた豊かな自然と、伝統文化を守り伝えることに努めており、『遠野物語』の世界に表現されている昔ながらの景観と雰囲気は今に残し、多くの観光客を魅了している。

『遠野物語』発刊100周年を迎えた平成22年には、市立博物館のリニューアルを中心としたハード整備に加え、市民が「昔話」「食」「郷土芸能」「歴史」「生業」の語り部になる「語り部1,000人プロジェクト」など市民総参加の取り組みが観光客へのおもてなしの向上につながり、約200万人まで観光客入込数が増加したところである。

4-2 地域の課題

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の風評被害等の影響により、東北地方全体の観光客入込が減少している傾向にある中、本市も例外ではなく、大震災の復興需要により一時的に滞在者が増加したものの、その後は減少が続いている。

一方で、平成27年12月5日に東北横断自動車道釜石秋田線遠野インターチェンジが開通したことにより、花巻空港や東北新幹線新花巻駅とのアクセスが向上し、更には平成30年に遠野住田インターチェンジが開通し、花巻―釜石間の全線が開通する予定であることから、宿泊を伴わない通過型観光に拍車がかかることが予想される。さらには、少子高齢・人口減少社会の進展により、国内旅行者数も減少することが予測されており、新たなターゲットの掘り起こしが必要である。

4-3 目標

岩手県は花巻空港から台湾への定期チャーター便の就航を契機に、同国との経済や観光面での国際交流の促進に積極的に取り組んでいるほか、平成31年には隣接する釜石市で

ラグビーワールドカップが開催、平成32年には東京オリンピックが開催されるなど、県内への外国人観光客の増加が期待される。折しも、平成29年は本市出身の人類学者で、台湾研究に大きな成果を残した伊能嘉矩が生誕150年を迎え、伊能の功績を讃える催しを遠野・台湾双方で開催する予定であることから、台湾とは一層の交流が深まることが期待される。

また、ワールドカップやオリンピックの開催にあたっては、本市のような地方都市もキャンプ地やホストタウンとしての役割が期待されており、これらを契機に、外国人観光客に対し、「日本のふるさと遠野」ならではの伝統文化を生かした明確な魅力を発信していく必要がある。

今年で開村20周年を迎えた「遠野ふるさと村」は、伝統的ななかやぶき屋根の曲り家が点在する集落を形成し、昔ながらの暮らしを今に伝える施設として、本市の観光・交流の核施設である。50年後も100年後も日本の昔ながらの暮らしや文化を発信していくための計画的な改修により、施設や景観の維持に努める。

また、今後更なる増加が期待される外国人観光客向けに、観光案内看板やガイドブック等の多言語化、外国人観光ガイドの育成等、観光情報の充実によるインバウンド対策のほか、「伊能嘉矩生誕150年特別展」開催に合わせた観光プロモーションの実施などにより海外に「永遠の日本のふるさと遠野」を発信し、外国人観光客の増加を図る。

これらハード・ソフトの取り組みにより、遠野ふるさと村の入込数の増、遠野市内に宿泊する観光客数の増、遠野市を訪れる外国人観光客の増を目指すものとする。

【数値目標】

| | 遠野ふるさと村の入込数 | 遠野市に宿泊する観光客数 | 遠野市を訪れる外国人観光客数 | 年 月 |
|-----|-------------|--------------|----------------|--------|
| 初年度 | 34,000人 | 79,000人 | 1,500人 | H29. 3 |
| 2年目 | 35,000人 | 81,000人 | 1,800人 | H30. 3 |
| 3年目 | 36,000人 | 83,000人 | 2,000人 | H31. 3 |
| 4年目 | 37,000人 | 85,000人 | 2,200人 | H32. 3 |

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

本市の観光・交流の核施設でもあり、昔ながらの農村の暮らしを今に伝える「遠野ふるさと村」を中心とした主要観光施設の計画的改修とともに、観光案内看板やガイドブック等の多言語化、外国人観光ガイドの育成等による外国人観光客に対応したインバウンド対策を実施する。また、岩手県が実施するいわて花巻空港と台湾桃園国際空港との国際線定期便化に向けたプロモーションを足掛かりに、イタリア(サレルノ市)、ドイツ(シュタイナウ市)、アメリカ(チャタヌーガ市)など本市とつながりのある欧米諸国に対し、「永遠の日本のふるさと遠野」を情報発信することにより、外国人観光客の増加を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名： 遠野型インバウンド「永遠の日本のふるさと遠野」世界発信プロジェクト
（伝統かやぶき屋根再生事業・外国人観光客おもてなし推進事業）

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

岩手県は台湾との国際線定期便就航を目指し、台湾との経済面や観光面での交流促進に積極的に取り組んでいる。平成28年度は、春(6月)と秋(10月)に季節定期便が就航されるのに併せて、県内市町村・企業・団体・県民が参加する「岩手県台湾訪問ミッション」により岩手の観光プロモーションを実施する。折しも、平成29年は本市出身の人類学者で、台湾研究にも大きな成果を残した伊能嘉矩が生誕150年を迎え、伊能の功績を讃える催しを遠野・台湾双方で開催する予定であり、本市も同ミッションに積極的に参加することにより、同国との一層の交流が深まることが期待される。

また、平成31年には隣接する釜石市でラグビーワールドカップが開催、平成32年には東京オリンピックの開催が決定しており、これらを好機と捉え海外に「日本のふるさと遠野」を積極的にPRする。ワールドカップには近隣自治体としてキャンプ地や練習会場、関係者の受入れ施設としての協力、オリンピックにはホストタウンとしての参加を予定するなどして海外からの観光客の増加を見込む。

海外からの観光客に「日本のふるさと遠野」を積極的に売り込むために、かやぶき屋根の曲り家で伝統芸能や伝統行事、昔話を披露するため、日本の昔ながらの暮らしや文化を伝える施設である「遠野ふるさと村」を計画的に改修する。

また、海外からの外国人観光客に対応するため、観光案内看板やガイドブック等の多言語化のほか、外国人観光ガイドの育成等、案内情報の充実等によるインバウンド対策を実施し外国人観光客の増加を図る。

(事業の内容)

・伝統かやぶき屋根再生事業

遠野市は、遠野ふるさと村(登録有形文化財6棟)を中心に、伝承園(国重要文化財1棟)、たかむろ水光園(1棟)の3つの観光施設に計8棟の南部曲り家を移築保存し、かつての農村の象徴であるかやぶき屋根の曲り家の保存に積極的に取り組んでいる。市の取り組みに呼応するように、遠野職業訓練協会では平成22年度から「いわて遠野かやぶき士」の技能評価認定を開始し、官民一体となり田園風景や伝統技術の継承に取り組んでいる。

遠野ふるさと村では「まぶりっと(守り人)」と呼ばれる地域住民によるインストラクターが農作業や季節の行事、わら細工などを実演し、昔ながらの暮らしを伝える施設として公開している。曲り家内での実演による体験型施設は本市にとって貴重な観光資源である

とともに、海外からの観光客に今も残る昔ながらの暮らしや文化を発信する最良の施設であるが、曲り家の施設や修景を良好な状態に保つには定期的な改修が必要となる。また、恒久的に施設を管理していくためには、保存技術の継承と市内の担い手確保が喫緊の課題となっている。

平成 28 年 3 月に本市が策定した「第 2 次遠野市伝統かやぶき屋根再生事業方針」に基づき、計画的な曲り家の改修に取り組み、「日本のふるさと遠野」ならではの貴重な観光資源の保全に取り組む。

なお、曲り家改修の状況を公開することで、他では中々目にすることができない伝統的技術を「見せる観光」としても活用する方針である。

・外国人観光客おもてなし事業

本市と交流のある海外の都市を拠点に、今後増加が見込まれる外国人観光客をターゲットにした攻めと守りの施策を展開する。

(1) 撃って出る「攻め」の戦略

岩手県はいわて花巻空港と台湾桃園国際空港を結ぶ国際線定期便就航の実現に向け、同国との経済や観光交流を積極的に進めている。遠野市と台湾とは台湾研究に尽力した郷土の偉人・伊能嘉矩が平成 29 年に生誕 150 年を迎えるなど、文化的つながりも深い。

平成 28 年 6 月には国際線定期便就航に向けた「岩手県台湾訪問ミッション」に本市の職員 5 名を派遣し、観光・産業・文化の分野で調査を実施。台湾での「遠野」の知名度は低いことから、今後も同ミッションに観光・文化に係る職員を積極的に派遣し、「オール岩手」の取り組みの中から「岩手・遠野」を PR する。

このほか、映画「遠野物語」の国際映画賞受賞を縁に姉妹都市締結 32 年目を迎えたイタリア・サレルノ市、中学生海外派遣交流の受入れ先として 20 年以上にわたり交流を深めるアメリカ・チャタヌーガ市、グリム兄弟のゆかりの地であり日本のグリムと称される本市出身の話者「佐々木喜善」が縁で交流が始まったドイツ・シュタイナウ市、これら本市とつながりがある国や都市を拠点に、遠野の文化・観光・物産を積極的に PR する。

平成 28 年 3 月には本市の造り酒屋の日本酒の海外展開に向け、イタリア・サレルノ市への市場調査を実施しており、日本料理店の賑わいからイタリア人の日本食への関心の高さを実感し、食品輸出入業者との商談会ではアンテナショップへの出店が提案されるなど一定の手応えを感じたところである。今後も、市内企業の協力を得ながら更なる商品の海外展開を図るほか、ソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS)を利用した遠野の情報発信を積極的に行い、物産振興から「遠野を訪れてみたい」と思わせる取り組みへとつなげる。

(2) 迎え撃つ「守り」の戦略 (インバウンド)

本市は東京 23 区がすっぽりと入る広大な面積 (826 km²) に観光施設が点在し、観光客は自動車や自転車で施設を巡っている。平成 28 年度に国の補助事業を活用し主

要観光施設にWi-Fi環境を整備する予定であり、観光客に対する観光情報提供による利便性向上が期待されるが、拠点施設間を結ぶルート（道路）上での案内が不足している状況にある。そのため、観光地へのルートを示す案内板や、主要観光施設を解説したパンフレットやガイドブック（デジタルブック版も作成しHP等での閲覧可能）、観光情報を発信するポータルサイトを多言語化し、海外からの観光客も安心して観光施設を回遊できる環境とする。

また、遠野市観光協会で申込可能な「遠野ふるさと観光ガイド」のほか、市内の観光事業者や市民ボランティアを対象に、外国人観光客への基本的対応やコミュニケーションなどを習得した外国人向け観光ガイドを育成し、毎年度10人の新規育成を目指すほか、既受講者へのフォローアップも実施することにより海外からの観光客の受入体制を整えるものとする。

→各年度の事業の内容

伝統かやぶき屋根再生事業

曲り家の屋根部分である「かやぶき」の全面葺き替えを行う。改修には、遠野職業訓練校が認定する「いわて遠野かやぶき士」の資格を持つ職人が携わり、改修期間中は建物を覆うことなく外からその状況を公開し、現在の住宅では見られなくなった曲り家の葺き替えを見学できるようにする。

初年度) 遠野ふるさと村 弥十郎どん曲り家 かやぶき屋根全面葺き替え

2年目) 遠野ふるさと村 肝煎りの家附属便所・乗込み長屋、似田貝バス停のかやぶき屋根全面葺き替え

3年目) 遠野ふるさと村 弥十郎どん附属納屋 かやぶき屋根全面葺き替え

4年目) 伝承園 乗込み長屋・食事処・厨房 かやぶき屋根全面葺き替え

外国人観光客おもてなし事業

初年度)・台湾への季節就航便（10月）に合わせた「岩手県台湾訪問ミッション」に市訪問団を派遣し、岩手県とともに遠野の観光・物産をPR。

・文化訪問団を派遣し、台湾大学、国立台湾博物館等の主要な教育文化施設関係者と「伊能嘉矩生誕150周年特別展」の開催について打合せを実施。

・外国人観光ガイド（10人）の育成を開始。毎年度新規10人、計40人のガイド育成を図る。

・観光案内板の多言語化に着手し、台湾からの受入態勢を整える。

2年目)・「伊能嘉矩生誕150周年特別展」を台湾、遠野の双方で開催。

・特別展の開催に合わせたオプションツアーを実施し、台湾からの観光客の受入れを図る。

・チャタヌーガ市と姉妹都市締結し、市民訪問団の相互交流ツアーを実施。

・外国人観光ガイドの育成と昨年度受講者へのフォローアップを実施。

・観光案内板の多言語化への改修を引き続き実施。

3年目)・ラグビーワールドカップ開催を契機に、遠野市及び釜石市を含む近隣市町村と共同した海外観光客向けツアーや、外国人向けの土産品を開発。これ

らの商品を中心に、交流のある海外の姉妹都市（イタリア・アメリカ）や友好都市（ドイツ）をはじめとする欧米への観光プロモーションを実施。

- ・外国人観光ガイドの育成とフォローアップを引き続き実施。
- ・多言語対応のWebサイトを制作し、市内観光客への観光情報の提供や世界に発信する仕組みを構築。

4年目）・ラグビーワールドカップ開催を契機に、遠野市及び釜石市を含む近隣市町村と共同した海外観光客向けツアーを実施。

- ・外国人観光ガイドの育成とフォローアップを引き続き実施。

(4) 地方版総合戦略における位置付け

遠野スタイル創造・発展総合戦略において「観光振興と交流人口の拡大による『で・くらす遠野』定住の促進」を重点プロジェクトの一つに位置付けている。基本目標に「永遠の日本のふるさと遠野」のコンセプトをもとに観光客の受入体制及び環境整備を進めるとしており、本事業の実施により目標達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価（KPI））

| 事業 | 伝統かやぶき屋根再生事業 | | 外国人観光客おもてなし事業 | 年月 | |
|-----|--------------|-------------|---------------|--------|----------------|
| | KPI | 遠野ふるさと村の入込数 | 遠野市に宿泊する観光客数 | | 遠野市を訪れる外国人観光客数 |
| 申請時 | | 33,000人 | 76,000人 | 1,200人 | H28. 3 |
| 初年度 | | 34,000人 | 79,000人 | 1,500人 | H29. 3 |
| 2年目 | | 35,000人 | 81,000人 | 1,800人 | H30. 3 |
| 3年目 | | 36,000人 | 83,000人 | 2,000人 | H31. 3 |
| 4年目 | | 37,000人 | 85,000人 | 2,200人 | H32. 3 |

(6) 事業費

(単位：千円)

| 伝統かやぶき屋根再生事業 | 年度 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|--------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| | 事業費計 | | 59,767 | 37,674 | 28,847 |
| 区分 | 工事請負費 | 59,767 | 37,674 | 28,847 | 18,296 |

| 外国人観光客おもてなし事業 | 年度 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|---------------|------|-----|-------|-------|-------|
| | 事業費計 | | 6,500 | 7,100 | 9,600 |
| 区分 | 旅費 | 500 | 1,000 | 500 | 500 |

| | | | | | |
|--|-----|-------|-------|-------|-------|
| | 需用費 | 5,400 | 5,500 | 6,300 | 6,300 |
| | 委託料 | 600 | 600 | 2,800 | 2,800 |

(7) 寄附の見込額

(単位：千円)

| | 年度 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|------------------|----------|--------|--------|--------|--------|
| 伝統かやぶき 屋根再生事業 | 事業費計 | 59,767 | 37,674 | 28,847 | 18,296 |
| | 寄附額計 | 5,000 | 5,000 | 5,000 | 5,000 |
| 寄附法人 | (株)オサダ | 3,000 | 3,000 | 3,000 | 3,000 |
| | 製造業者T社 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| | (株)十辰製作所 | 500 | 500 | 500 | 500 |
| | 製造業者O社 | 500 | 500 | 500 | 500 |

| | 年度 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|-----------------------|---------|-------|-------|-------|-------|
| 外国人観光客 おもてなし事 業 | 事業費計 | 6,500 | 7,100 | 9,600 | 9,600 |
| | 寄附額計 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 寄附法人 | (株)ピーぷる | 500 | 500 | 500 | 500 |
| | 印刷会社H社 | 500 | 500 | 500 | 500 |

(8) 事業の評価の方法 (PDCAサイクル)

(評価の手法)

事業のKPIである主要観光施設の訪問者及び遠野市に宿泊した観光客数、遠野市を訪れる外国人観光客数について、毎年度3月末時点のKPIの達成状況を、毎年6月までに把握可能な指標を速報値として取りまとめ、実績値を公表する。また、当市の総合計画審議会委員(市内各機関・団体の代表者等)により事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

(評価の時期・内容)

事業実施の翌年度8月に外部有識者(総合計画審議会委員)による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

(公表の方法)

遠野市総合計画審議会は公開で行うほか、検証結果は遠野テレビを通じて市民周知を

図り、遠野市公式ホームページに掲載し公表する。

また、検証結果は遠野市地域経営会議に報告するほか、9月に開会される市議会に主要な施策の成果説明書として報告する。

(9)事業期間 平成28年9月～平成32年3月

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

事業のKPIである主要観光施設の訪問者及び遠野市に宿泊した観光客数、遠野市を訪れる外国人観光客数について、毎年度3月末時点のKPIの達成状況を、毎年6月までに把握可能な指標を速報値として取りまとめ、実績値を公表する。また、当市の総合計画審議会委員（市内各機関・団体の代表者等）により事業の結果を検証し、改善点を踏まえて次年度の事業手法を改良することとする。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

事業実施の翌年度8月に外部有識者（総合計画審議会委員）による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する予定。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

遠野市総合計画審議会は公開で行うほか、検証結果は遠野テレビを通じて市民周知を図り、遠野市公式ホームページに掲載し公表する。

また、検証結果は遠野市地域経営会議に報告するほか、9月に開会される市議会に主要な施策の成果説明書として報告する。